



ホア ビン (平和)

HOA BINHレポート

JVPF 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議

NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町316番地菊池ハイツ101 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
#101, Kikuchi Haitsu, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp

56号

2024年テト
(2月10日)会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円 口座名/特非)日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキユウ)店(当座)188872

CHÚC MỪNG NĂM MỚI 日越外交関係樹立 50周年を経て

次の、平和と友好と連帯の活動へ

ベトナムアンサンブル公演演目“バザンの息吹き”(原題: NHIP THÓ BAZAN)より。2023年10月17日、兵庫公演



Bazan の意味は中央高原地帯の特徴である赤い土に覆われた5つの省を指す言葉で、この地帯にはバナ族、エデ族、ザライ族、コホ族、セダン族、ムノン族など多くの少数民族が暮らす。

- ・2023年のベトナム北部・ハザン省で日越友好植林事業の開始。引き続き、2024年、第二期1年目(3.5ha、10,500本、シナモン)が開始されます。
- ・北部ハザン省の奨学金支援しているヴイスエン少数民族寄宿中学校に、香川 HVPF はソーラー電卓 70 台を寄贈しました。2023年度奨学金支援(2024年1月予定)が引き続き40人の学生に行われます。また、ヴイスエン公立中学校でも20人の少数民族学生へ支援を計画中。
- ・鹿児島 JVPF はラムドン省でのプロジェクト終了を受け、北部バクザン省で奨学金支援事業を計画。JVPF 中央と共同で進める予定。
- ・2023年ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートは“わたしの体の中では戦争が終わっていない”という被害

者の叫びに応え開催。叫びがある限り使命として継続していきます。

- ・枯葉剤爆弾被害貧困家庭支援『仁愛の家』寄贈活動はベトナムアンサンブル・チャリティーコンサートによる基金が目標通り創ることができませんでしたが、労働組合・連合の「愛のカンパ」助成を受け1軒の家庭に届ける予定です。

2024年テト

【本郷の内容】

- ・日越外交樹立50周年記念訪問団/宮崎、広島-2-3p
- ・チャリティーコンサート報告/東京、東松山、北上-3-5p
- ・JVPF 福岡「ハノイ大学で短期研修再開」-5p
- ・KVPF(香川)「2023年度活動から次へ」-6p
- ・宮崎「50周年記念式典」-7p
- ・広島 HVPF 設立15周年-7p
- ・ふえみんベトナムプロジェクト～技能実習生リンさんの無罪獲得への支援-8p

2023年

日越外交関係樹立 50 周年を記念して

訪問団が取り組まれました

宮崎から

宮崎県とベトナムの友好深化に向けて

宮崎JVPF 前事務局長 川畑 匡

はじめに

宮崎県日本ベトナム友好協会(以下、「MJVA」)は、2023年9月21日が日本ベトナム外交関係樹立50周年に当たるのを記念し、同年5月20日の第3回総会で、以下の記念事業を行うことを決定しました。(1)宮崎県ベトナム人協会主催の第3回サッカー大会の後援(8月6日)、(2)「えれこっちやみやぎ」(7月29～30日)の総踊りにベトナム人の若者が初めて参加する、(3)「ベトナム友好の旅」を実施する(7月20～25日)、(4)「日本ベトナム外交関係樹立50周年記念宮崎県式典」を開催する(10月1日)。

これらは全て実行しましたが、今回は、(3)(4)について報告します。(4)は「各地の活動から」の項。

ベトナム友好の旅

目的は、(1)MJVAの役員がベトナムをじかに知る。(2)ベトナムと宮崎県の民間レベルにおける友好関係を築く。とし、ホーチミン市の①②③を訪問しました。訪問団は理事長以下7人。

① A ベトナム建設コンサルタント(株)(本社は宮崎市)

同社は、日本の建設業における労働者不足に対応するため、それも、技術レベルの高い熟練建設労働者の育成に特化しており、ベトナム人卒業生の多くが日本の建設業で活躍しています。提携している短期建設大学では、日本語の授業風景、技術実習用の大きな建造物を見学、学長、国際部長等との意見交換も行いました。宮崎県にもこんなに頑張っておられる企業があるのだと感心しました。

この後、JETRO(ジェトロ)ホーチミン事務所を訪問、「ベトナムの経済概況と日系企業進出動向」について説明を受けました。

②ドンズー日本語学校

グエン・ドク・ホエ氏により1991年に設立された有名な日本語学校。同校のプログラムは、ベトナムの若者を私費で日本に留学させるもので、ドンズーで6～12月間、日本語を学び、その後日本でさらに1～2年日本語を勉強し、日本の国立大学・有名私立大学を目指します。実は、今回の訪問が実現したのは、宮崎県ベトナム人協会の副理事長であったTさんのおかげです。彼はドンズー日本語学校の卒業生(埼玉大学工学部卒業)で、昨年8月に宮崎市から家族とともにホーチミン市に転居しました。彼が、校長先生にMJVAの意向を伝え訪問が許可、更に、ホエ元校長(現名誉顧問)の自宅にも行ってくれました。

当日は、担当者から、同校の概況をお聞きした後、授業中の各教室を見て回り、その後、ホエ氏と意見交換を行いました。物腰柔らかく、優しい笑顔のホエ氏でした。

③ホーチミン市の日越友好協会

ホーチミン市越日友好協会との会話後



事前にJVPFの鎌田さんに設定してもらいました。とても気持ちよく受け入れていただき、楽しい時間となりました。新会長に就任されて間もないグエン・フック・ロク会長は、「私が会長に就任して、日本からの2番目のお客さんです」と言われ、日本語で、「ふるさと」を歌われ、皆んなで合唱するハプニングもありました。今後、宮崎県とベトナム南部との何らかの関係構築が出来ないものかと考えています。

ベトナム友好の旅の総括はまだですが、IFCCにお世話になりながらも、①②はMJVA独自に、直接、設定できたことは良かったのではと考えています。

これからも、宮崎県で働いている若いベトナムの皆さんがたとの繋がりを強め、結果として、ベトナム本土との個人・団体との繋がりになるよう努めていきます。

広島から

「3つの目的」を楽しく美味しく、有意義に果たす
一社) 広島ベトナム平和友好協会
会長 赤木達男



「HVPF設立15周年」、「日越外交関係樹立50周年」という二つの周年記念を冠に、11月初旬に第16次訪問団がベトナム中部を訪れました。メンバーは18歳の青年から30～40歳台の中堅、60～70歳台のベテラン、86歳の超ベテランの16名(非会員9名)。

今回の訪問は幾つかの「ミッション(公式行事)」をこなし、

ベトナム戦争の戦跡や枯葉剤被害者宅訪問などに学ぶ「平和 Tour」、ベトナムの歴史と文化に触れ、ベトナム料理(ベトナム料理)を堪能する「ベトナム満喫 Tour」という3つが目的でした。心配された雨期の訪問でしたが、この「3つの目的」を楽しく美味しく、有意義に果たすことができました。

思わぬサプライズ歓迎、大きな成果につながっている奨学支援

ヴォー・ヴァン・フン人民委員会委員長(省知事)と会見では、HVPF 会長就任を祝う花束と15年にわたる省との関係構築と奨学支援などの功績ということで表彰状と記念品を頂きました。

少数民族寄宿高等学校では、この間卒業した240名の奨学生の67.5%(162名)が大学や短期大学に進み、医師や教師、エンジニアや軍隊、少数民族村の人民委員会などで活躍していること。現在7名が東京、埼玉などに留学していることなどが伝えられ、ささやかな支援が子どもたちの夢と可能性の扉を開き、大きな成果へとつながっている

ことが確認できました。サポーター確保の苦勞が報われた感慨と継続の決意を新たにしました。

帰国後、1名入会、4名がサポーター登録

クアンチ省全面積の82%が地雷や不発弾に汚染され、1976年以降8,500名余の命が失われています。「被害の31%が子ども」という原因の「大半はクラスター爆弾」との説明に、「この瞬間にもウクライナで、ガザでクラスターにより子どもたちが傷つけられ、殺されている」と頭をよぎりました。そして、瞬間だけでなく、さらに多くの時を通して被害を継続させるクラスター爆弾は絶対に許されないと怒りが湧きました。

高齢の参加者も多く、ケガや病気、アクシデントが心配されましたが、「少々キツかったが、こんな旅行は初めて。勉強になった」との感想をいただき、帰国後1名の入会と4名から奨学支援のサポーター登録をいただき実り多き訪問になりました。

2023 枯葉剤被害者支援 ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート

“わたしの体の中では戦争が終わっていない”と叫びが続く限り

東京公演

大盛況！ 枯葉剤被害をもういちど考える

東京公演実行委員会 佐藤有恒

東京公演は、10月20日北区の滝野川会館大ホールにて開催されました。北区では25年前に小学校体育館で開催して以来のことで、実質8月スタートの短い準備期間だったため不安ばかりが先立ちましたが、新たに力を頂いた地元関係者をはじめ東京各地の協力を得て成功することができました。

公演は、30名のボランティア・スタッフが準備・運営を支え、枯葉剤被害のパネル展示やベトナム産グッズ品に見入りながら開演を待った参加者430名で会場が埋まりました。

舞台では、東京実行委員長の高瀬稔さん(子ども食堂・学習支援のNPO代表で「深川めし」社長)、TVでも知られている在日ベトナム人の支援活動に取り組んでいる僧侶のティック・タム・チーさんのお話の後に、民族楽器が響き渡り歌と踊りのアンサンブルがスタート。



ご報告

アンサンブルは、2023年10月16日に来日し、神戸市(昼夜2公演)、東京、埼玉・東松山市、岩手・北上市4箇所5回のチャリティーコンサート、1箇所で開催された文化交流演奏会(東松山市・幼稚園)を行い10月23日に帰国いたしました。来場者は約1,400人、チケット購入協賛者は約2,500人になりました。

コロナ禍を経て2022年に再開し、2023年は日越外交関係樹立50周年事業として日本政府の事業認定も受け準備してきましたが、主体側の力不足で公演回数が計画通りとはいきませんでした。しかし、各地で感動を呼ぶ公演となり夫々の公演は予想を超える参加者で主催者や公演実行委員会方々のご尽力の賜物と感謝する次第です。

2023年で年数26年目(2020年、2021年は中止)となり、累積で398会場、来場者数約118,700人を数えることになりました。

2024年1月 2023公演事務局

演じられたのは総計17曲。そのすべてが素晴らしい出来栄で、舞台装飾や照明・音響も効果的。観客を魅了させた満足度の高い公演となりました。芸能関係に携わる方からも、「これほどのものとは思っていなかった。十分に堪能できた」とお褒めの言葉。

趣旨に協賛いただいたオペラ歌手・角田和弘さんのテノールの美声も堪能できました。



演奏前、ティック・タム・チー尼僧の記念講話



駆け付けていただいたゲスト
のオペラ歌手角田和弘さん

終演後、次々とカンパ箱に紙幣が投げられ、出演者とのふれあいやベトナム・グッズ品の販売コーナーが盛り上がるなど感動の余韻に浸りました。

事前の取り組みで枯葉剤被害を学びました。猛毒のダイオキシンを含む化学兵器の枯葉剤。ベトナム人 400 万人に影響を与え、50 年を経た今も「先天性欠損症」などの催奇性出産や癌を多発させるなど 4 世代に渡るベトナム人に苦痛と障害を与えています。「私たちの戦争は終わっていない」のです。NHK/BS1 でも 2021 年に米・仏合作のドキュメンタリー番組「枯葉剤 母親たちの闘い」を放映し、国家(戦争)犯罪に立ち向かう市民の闘いを紹介しています。戦争は人のいのちと環境を破壊する愚かな行為であると改めて気づかされた取り組みとなりました。

収支は黒字となり、チャリティ支援に貢献することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。(23.12.28)

欲しいという声があったことから、土曜日の昼間にしました。結果、収入はチケット代 919,500 円、広告代 590,000 円でした。チケット販売数は 388 枚でした。去年と同じ規模を維持できました。(実行委員1人ひとりのチケット売りが大切でした。特に多い方で 90 枚ものチケットを売った大先輩がいました。おどろきです！ありがとうございます。)

しかし、ロータリーの会員は個人事業主が多く、また、お客さんにも個人商店や個人事業主がいて、土曜日の昼間は仕事で駄目だという人が多く、かえって入場者が減ってしまうという課題も生じました。

また、もう一つの取り組みとしては、一般社団法人「在日ベトナム仏教信者会」の会長である釈心智(ティック・タム・チー)さんと交流をすることができました。コンサート当日、在日のベトナム人の皆さんの実態と取り組みについて、報告していただきました。公演に参加された方からのアンケートには「ベトナムについて全く知らない自分に気がきました。これから勉強させていただきます。」とありました。うれしい限りです。公演後、11 月末に開かれた最後の実行委員会では、今後の取り組みとして、在日のベトナム人の貧困者及び生活困難者の支援を何か考えていこうとの声も出て、皆で確認し合いました。

コンサートの内容は素晴らしく、公演の後の、お客さんからは良かったという声が多く聞かれました。

最近では、東松山市での公演が続いています。公演の趣旨からは、他市でもやったほうが良いと思うので、来年は検討したいと思います。

今回、文化交流でコンサート開催前々日の 10 月 19 日(木)に東松山市内の「仲よし保育園」で 40 人の子どもたちと交流し、ベトナムの楽器の独特な形や音色に子どもたちは興味津々。楽器に触れて、音の出し方をアンサンブルメンバーに教えてもらっていました。その光景を見て、交流が深まったことを実感しました。

また前夜に焼き鳥屋を貸し切り、出演者の皆さんの歓迎会ができたのは大変に良かったと感じています。



ボンセン歌舞団演奏部部長で今回のボンセン歌舞団選抜グループ団長のグエン・アン・タンの華麗な数々の弦楽器演奏は、聴衆を魅了しました。

東松山公演

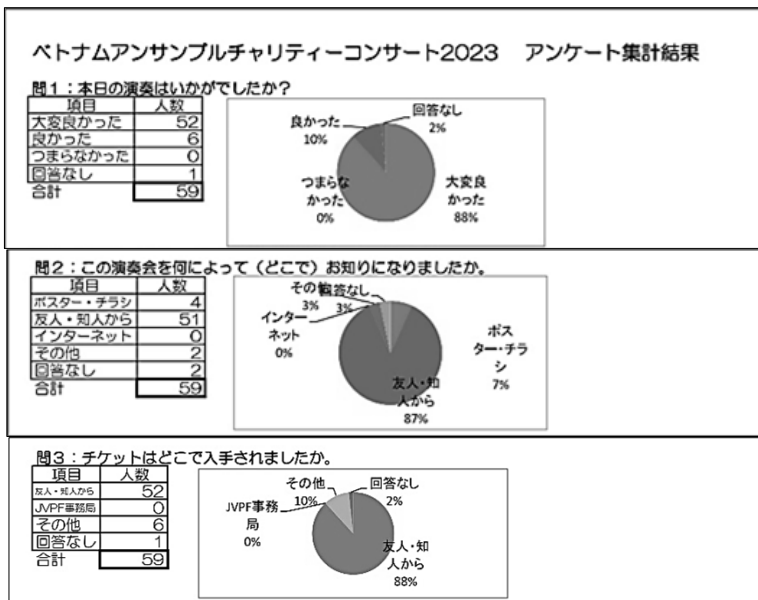
「生演奏」で、すばらしい、音いい、踊りいい、と多くの声

東松山公演実行委員会 山下 茂

10 月 21 日(土)午後2時より、東松山市民文化センター(1,200 人)において、約 350 人の方の参加を頂き、ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートを開催しました。

主催は公演実行委員会(小藤恵美子実行委員長)で、東松山市、比企地区市町村教育委員会連合会、東松山むさしロータリークラブ後援、協賛に埼玉中央農業協同組合、埼玉弁護士会熊谷支部、(財)原爆の凶丸木美術館、日本ベトナム平和友好埼玉連絡会で取り組みました。実行委員会は 10 人弱の主婦や団体役員の人で、年齢的には 40 歳から 80 歳までの人で構成され、6回開催されました。

今回は、お客さんに高齢者が多いので、昼の公演にして



岩手・北上公演

24年ぶりの公演、参加者を魅了！

北上公演実行委員会 平野 明紀

北上公演は、10月22日、日本現代詩歌文学館講堂で開催しました。

岩手では、8月～9月、県知事・県議会議員選挙が行われたため、実行委員会の結成は9月22日となり、限られた期間中、平和環境岩手県センター、自治労岩手県本部、岩手県教職員組合、社民フォーラム北上、岩手・ベトナム平和友好連絡会議などの協力によって、各団体の協賛、コ



枯葉剤被害状況のパネル展示も

ンサート協力券の普及に取り組みました。

協力券の普及にあたっては、北上市、北上市教育委員会、連合岩手から後援をいただき、県内の各労働組合、退職者組織のほか、北上市女性団体協議会、北上民舞踊協会など各団体からも多くの方にご来場いただくことができました。

公演の2～3日前には、地元コミュニティFM局の協力で、イベント情報として発信することができ、チャリティーコンサートの開催を、市民のみなさんに広く知っていただけたものと思います。

北上では24年ぶりの公演となり、コンサート当日は、約110名の方にご来場いただきました。会場内のハワイエでは、ベトナム戦争の記録、枯葉剤による被害の実態、国際連帯による救援活動の経過などがパネル展示され、多くの来場者が、足を止めていました。

来場者からは、「前回の公演では珍しさもありおもしろかったが、今回は、構成もすばらしく、見応えがあり、感動した。」「珍しい楽器演奏と優雅な踊り引き込まれた。次回の開催も楽しみにしている。」「もっと広い会場でやって、もっと多くの市民に見てもらえればよかった。」などの感想をお聞きすることができ、終演後も、出演者と来場者で記念撮影が行われるなど、しばらく余韻に包まれました。

また、今回は北上が最終公演となったことから、公演終了後は、北上市内で夕食交流会を催し、出演者のみなさんと実行委員会スタッフとの親交を深め、地酒と特産の「いものこ汁」をお楽しみいただきました。

各地の活動から

ハノイ大学での短期研修再開

JVPF 福岡 高木豊彦

◆はじめに

コロナ禍で3年ほど中断していたハノイ大学短期研修を8月22日～9月1日の日程で開催しました。この短期研修は、ハノイ大学 CCJLC との共同企画でベトナムの言語、文化、歴史への理解を深め、日越の学生交流と協力関係の促進を目的に2015年から毎年8月に開催してきました。2023年度は、3大学から12名が参加し、11日間のハノイ大学での研修を無事終えることができました。

研修概要は以下の通りです。

◆午前中の授業について

授業は朝の8時30分から11時30分まで行われました。1限目は、ベトナム語の学習(6講座)、2限目はベトナムの文化、生活、歴史、経済(5講座)などについて学習しました。

参加学生からは、「ベトナム語の勉強はとても難しかったけれども先生がわかりやすく説明をしてくれたので少しずつ理解できるようになりました。特に難しかったのはベトナム語の発音で1つの文字に複数の読み方、イントネーションがあるため苦労しました。」「ベトナムの文化や歴史、経済に関する授業では、日本語で授業していただいたのでとてもわかりやすく、午後の学外研修を通して再確認できるので午前中の授業はとても大切だと感じました。」との感想が寄せられました。



◆午後の学外研修について

午前中に学習した内容を市内の観光地や建築物、博物館などを見学することでベトナムの文化、歴史に触れ、ベトナムに対する理解をより深めることを目的に企画しました。「午前中に授業で習った内容を午後、実際に建築物や展示物を見ることによって、より理解が深まりました。」「ハノ

イ大学のボランティア学生や先生が同行してくれてスムーズに困ることもなく学外での研修を楽しむことができました。わからないことがあればボランティア学生に直接聞いたり議論したり意見交換したりしてより総合的に歴史や文化を学ぶことができました。」との評価でした。

◆日系企業訪問について——略

◆ハノイ大学学生との交流について

この研修の大きな目的でもあるハノイ大学学生との交流については、午後の学外研修や自由時間等、ハノイ大学のボランティア学生が自分の授業の合間をぬって常に同行し、交流を深め合いました。参加者からは、「お互いの日常生活や勉強のことについて質問したり、ハノイの様々なところに出かけたりし交流しました。」「ボランティア学生の日本語能力も高く、通訳をはじめ細々としたこともサポートしていただき感謝の念に堪えない」と多くの声が聞かれました。



◆世界自然遺産ハロン湾及び世界複合遺産チャンアン観光について——略

◆短期研修全体の感想について

◎今回の研修を終えてベトナムについて多くのことを学ぶことができました。ベトナム語や文化、歴史、習慣など今まで自分が経験したことがない事ばかりで毎日が驚きの連続でした。その中でベトナムのことが大好きになり、最終日にはまだ日本に帰りたくないと思えました。研修では多くの観光地を訪れたり授業を受けたりしました一番楽しかったのはハノイ大学の学生との交流でした。午後からの研修では毎日入れ替わりでたくさんのボランティア生が案内や通訳をしてくださった話をすることができました。

◎この研修は大学生活と人生においてとても大事な人生経験となりました。私はベトナムに非常に興味を持っていましたが、行く機会がなく観光だけで行ってもベトナムの文化を理解することはむずかしいと思っていました。この研修ではベトナムのすべてのことを自ら体験し学ぶ機会となりハノイ大学の先生たちに感謝します。

◎研修を終えて、日本とは違うベトナムの環境や食べ物、風景、習慣、交通、人柄に触れることができ、とても貴重な経験ができたと感じています。ハノイ大学の先生方や学生の方々が研修期間中、ずっとサポートしてくださり安心して研修を終えることができました。またハノイ大学の先生や学生の方々は私たちの顔や名前をすぐに覚えてくださったり、歓迎会をしてくださったりとコミュニケーションをとろうと工夫していただいたのでベトナム人の温かさに触れ嬉しかったです。

◎研修に参加する前、ベトナムはフォーのイメージしかなく全く想像がつかない状態でした。しかし、研修でベトナム

の言語や歴史を学んだりハノイ大学の学生や先生、現地の方と交流することで平和主義の方が多く親日である、自国愛が強い、フレンドリーな方が多いなどベトナムに対するイメージがどんどん増えて行きました。

- ◎今回の研修は本当に濃密な12日間を過ごさせてもらいました。きっとこれからの人生において忘れられない12日間になるし、そうしていこうと思います。対人関係を含めすべてが素晴らしく、上手く行きました。益々、海外が好きになり関わって下さったすべての方に感謝です。
- ◎苦労することは多々ありましたが、それ以上に充実した時間を過ごすことができ、楽しい思い出となりました。

2023年度活動から次へ

KVPF(香川) 事務局長 井出哲夫

2023年度における香川ベトナム平和友好連絡会議(KVPF)の活動としては、通年での定例事務局会議の開催が主な行事となっている。

次には、6月8日に遅れていた総会をようやく開催できた。総会の冒頭、これまでKVPFの活動をけん引してこられた大西繁治さん、香西幸夫さんを偲び黙祷し、その後の会議においては滞りなく全議案が承認され、新しい役員として尾田美和子さんが副会長として選出された。

終了後の懇親会においては、来賓として香川県知事、さぬき市長、高松市副市長、直島町長、その上に穴吹学園のベトナムからの留学生が3人参加し、総会出席者との意見交換が活発に行われた。留学生の3人は日本語での自己紹介も含め日本での生活実態等を伝えてくれたりし、参加者との交流も踏まえ大変有意義なものとなった。

また、KVPFは「日越外交関係樹立50周年」を踏まえ、ベトナム大使を招いての「日越交流セミナー2024」を開催する方向で現在企画・検討している。そのため、10月25日金光会長がベトナム大使館を訪問し、直接大使にお会いし、香川県とベトナムの観光・交流等を含む経済活動全般のさらなる強化・発展の必要性を訴えるとともに、ウインウインの関係性を維持し、新たなステージへの期待をともに共有すべきであるとの認識を示した。これに伴い2024年年明けに、ヒエウベトナム大使の香川への訪問日程調整等を進めるとともに、香川での日越交流セミナーの具体的な開催内容等を更に綿密に協議を進めている。

11月22日には通常の定例事務局会議を拡大し、法人会員である(株)サンキから松谷本部長、豊島人事部長を招き、実際にベトナム人を雇用している企業側から見たメリット。デメリット等をお話いただき、その後参加したKVPF理事との意見交換を開催した。我々が想像できない課題等も現実にあることを改めて認識することができた。

今後もKVPFとして企業等を招き意見交換等を開催する企画を、積極的に進めていきたい。

また、これまで言及してきたことではあるが、香川に在住するベトナム人(留学生を含む)との交流を通して、新たなコミュニティーを創設することで、何かしらの支援に繋がるよう、取り組みを検討していくことを確認している。

日本ベトナム外交関係樹立
50周年記念宮崎県式典 開催

宮崎JVPF 前事務局長 川畑 匡



2023年10月1日(日曜日)に宮崎市内のホテルで、日本側約50人余、ベトナム側が在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館総領事ほか県内で働く技能実習生を中心に約40人、おおよそ100人の出席で標記式典を無事開催出来ました。事前準備にかなりの時間とエネルギーを使い、ハラハラする出来事もありましたが、知事部局をはじめ、各団体の皆様の積極的なご支援をいただきました。終了後には多くの皆様から楽しかったと喜びの声をお聞きしました。又、知事には、式典進行中に当初の予定を変更され、最後の全体写真まで在席、感謝の至りでした。ベトナムの若い皆さんもとても喜んでおられました。当日の、来賓の具体的参加者は以下のとおりです。

衆議院議員(前外務副大臣)、在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館総領事、宮崎県知事、宮崎県議会議員、宮崎市長、宮崎県市議会議長、JA 宮崎中央会会長及び同労働力確保支援室室長、宮崎県商工会議所連合会会長及び同常務理事、宮崎県商工会会長及び同専務理事、宮崎県建設業協会会長、宮崎県中小企業団体中央会専務理事、宮崎県国際・経済交流課長、宮崎県国際交流協会会長、宮崎市国際交流協会事務局長、連合宮崎会長、宮崎県労働者福祉団体中央会会長、A 建設コンサルタント(株)海外事業部執行役員、宮崎県地方自治問題研究所所長、宮崎県ベトナム人協会理事長等。

当日の進行は進行の「葉」を日本語版とベトナム語版で作成。アトラクション以外は、すべて、通訳を配置、映像ではベトナム語も併記しました。地元シンガーの評判が良く、総領事はリクエストをされていました。

この記念式典は宮崎県日本ベトナム友好協会(以下、「MJVA」)だけの主催で行いました。目的としては、50周年のお祝いの意もありますが、宮崎県の各界のトップ層と県内で働く技能実習生が、わずかに2時間ながら時間と空間を共し、ほんの少しでもお互いを知ることができれば、も目的としました。日本側の参加者は、技能実習生を初めて見る人が殆どではなかったかと思ひますし、ベトナム側の参加者も、衆議院議員、総領事、知事をはじめ、宮崎県の各界のトップと会話をし、一緒に写真を撮る機会も初めてのことだったと思ひます。

目的はほぼ達成されたのではと考えていますが、労働の最前線では、技能実習生の解雇問題や(1件は、連合ユニオンの努力で円満解決)、事件に巻き込まれ解雇された例も起こっています。

本年、技能実習制度が廃止され、新しい制度に変わりますが、県内の高校生同様に、都市部を求める外国人労働者が増えると想定されています。しかし、どんな制度下でも、MJVA は、小さな組織ですが、県内で働くベトナムの人たちとの親交を今後も強め、ベトナム本土との個人・団体との友好も深める努力を続けてまいります。

「HVPF設立15周年」と「日越外交関係樹立50周年」の2023年は、例年に増して多忙な年でした。以下、取り

「HVPF設立15周年」と「日越外交関係樹立50周年」

一社)広島ベトナム平和友好協会
会長 赤木達男

組みを報告します。

5月には「G7広島サミット」拡大会合に出席のファム・ミン・チン首相と、広島県内3つのベトナム交流団体が会見し、HVPFがホスト役を務めました。ベトナムの友人から「ニュースを見た」とメールが入り、市内外から電話がかかるなど、国内外でHVPFの認知度を高めていただきました。

同じく5月は“ベトナムがくしみん講座”「ベトナム教室」(年間4講座)を開講し、11月までに3講座終えました。持ち出しが多かった教室を「年間通参加」と「個別参加」併用とした結果、受講者が増え若干の益金が出るようになりました。

6月の「第15回総会」では設立以来、会長を務めていただいた河内前会長に代わって私が会長に就きました。副会長1名、理事数名の交代とともに常務理事を設けました。総会に続く会員研修会では、JVPFの活動を紹介しながら今日的な情勢と課題について鎌田副理事長に講演いただきました。

7月は“エージェントオレンジ Day”2023in ヒロシマ」の第一弾、一週間の「枯葉剤被害パネル展」に347名の来場。高校生・大学生が企画するシンポジウム“平和と愛ってなんだろう”には14名が参画してくれ、学生との連携が広がりました。

8月は第二弾、“LOVE&PEACE”チャリティーコンサートを開演。グエン・ドクさんを支援している歌手を招き、地元演奏家や同好会などによる演奏。グエン・ドクさんからビデオメッセージ、在住ウクライナ人から特別アピールをいただきました。

9月29日、「HVPF設立15周年」と「日越外交関係樹立50周年」を記念して、「HVPF設立15周年記念式典」、「駐日ベトナム大使講演会」、「祝賀交歓会」を開催しました。7月に東広島市や市議会、商工会議所や広島大学をはじめ



め市内4大学、企業や団体、住民自治協議会など20団体余りの協賛を得て実行委員会を結成。記念行事には124名に参加いただき、成功裏に終わることが出来ました。

10月には「東広島国際フェスタ2023」(参加者5,000名余り)への出展。JAひろしま、(株)メンテックワールド、広島アセアン協会に呼びかけ4者共同出展。ブースは各出展者の独自企画と共同企画で構成。HVPFは活動紹介や奨学支援、枯葉剤被害者支援パネルを展示しました。「東広島検定」「アセアン&ベトナム検定」合格者にプレゼントしたお米はJAひろしまに提供いただき、来館者が殺到する人気ブースとして今年も盛況でした。

11月には16名の代表団でベトナム訪問。これについては別項で報告します。

慌ただしかった一年。個人会員7名、法人会員3社の加入いただき、諸事業を成功裏に進めることが出来ました。しかし、懸案の課題は緒に就いたばかりです。世代交代期を迎え、組織と活動の継承・継続のための人づくりです。待った無しの課題、一年間の成果と教訓を糧に、「設立第4期」に入る来年度から腰を入れ直さなければならないと思いを新たにしています。



2023年3月24日、最高裁判所正門前は、大粒の雨が降りしきる中、大きな歓声が上がった。「リンさんは無罪」大きな横断幕を前に大勢の報道陣が取り囲んだ。すぐ、ネットに「元技能実習生、逆転無罪判決」のニュースが流れた。支援していた私たちにとっても感激の瞬間だった。

私たち「ふえみんベトナムプロジェクト」は、ベトナムダナンの児童養護施設「希望の村」を支援して27年。日本語を学んで来日した子も16人になり、日本で働いている子もいる。彼らが中心になって、月に1回(現在は年に数回)、日本でベトナムレストランを運営し、「希望の村」や困難な子どもたちの支援に充てている(これを「支援の循環」と呼んでいる)。また、ベトナム人が多い技能実習生の非人間的な状況を知るにつけ、これは日本社会の責任であり、できることからやろうと考えた。19年に日新窟寺務長の吉水慈豊さんの講演会をもったり、コロナ禍には、タム・チーさんに寄付金を送ったりした。

2021年1月、「希望の村」支援者からも集めていた寄付金の有効な使い道を、「移住者と連帯する全国ネットワーク」の鳥井一平さんに相談したところ、「今緊急に必要なのは、リンさん」とのこと。「熊本のベトナム人技能実習生リンさんが赤ちゃんを死産して、死体遺棄罪で起訴された。保釈金が足りないので支援してほしい」と言う。すぐに支援活動をしている「コムスタカー外国人と共に生きる会」に連絡し、支援金を送った。それから署名集めをし、リンさんに応援の手紙やタペストリを送って、「一人じゃないよ」とのメッセージを伝えた。同時にベトナムの留学生らを立てての勉強会、鳥井さんによる講演会や、熊本を訪問した際「コムスタカ」の皆さんと交流した。これをきっかけに、卒業生の一人はベトナム語での「にんしん」相談サイトや市の相談窓口を担当している。

しかし、熊本地裁(21年7月)に引き続き、福岡高裁でも有罪判決(22年1月)。リンさんをパッシングするSNSは酷かったという。22年4月、東京での集会、最高裁への上告の行動、23年2月最高裁弁論集会など、東京での行動の裏方を手伝った。いよいよ3月24日の最高裁での無罪判決。記者会見には多くのジャーナリストが集まり、翌日は、トップニュースとなった。

この裁判で問われたのは、日本社会の三重の差別である。①技能実習生への差別(彼女たちは妊娠・出産すれば帰国させられると脅されていた)②婚姻外で妊娠し、孤立出産する女性への差別 ③妊娠・出産を女性のみ責任を負わせる女性差別。リンさんはたまたま「コムスタカ」に出会って、支援を得られたが、そうではない女性がたくさんいるのが現状だ。これらの差別は、リンさんだけの問題ではなく、日本に住む私たちみんなの問題であり、諦めず

に闘ってくれたリンさんの勇気に感謝している。

現在「技能実習制度」の廃止を含む改革が検討されているが、注視していきたい。

技能実習生リンさんの無罪判決獲得への支援

ふえみんベトナムプロジェクト、渡辺美里



リンさんへ。パッチワークで